

シェアリングサービスを悪用した不労所得トラブル回避について考える（2024年4月5日）

高級腕時計の持ち主と、借りて使いたい人のシェアリングサービスをうたう運営会社が今年1月末に突然、解散を発表し、多数の腕時計が返却されないままになっています。

どんな事例か

事業者は、「高級ブランド時計を月額制でレンタルすることができるユーザーと、高級ブランド時計を預託することで毎月の安定した収益を得ることができるオーナーを繋ぐサービス、購入するよりも経済的なサブスクリプションと、売却するよりも実利的なシェアリングエコノミーを掛け合わせた、新しい形の腕時計ライフを楽しめる」と謳い、メディアにも取り上げられました。昨年11月以降、時計が貸し出された形跡がないようです。

時計を預け、最初に何度か月額預託料を受け取った人もいますが、その後、支払いがされないまま、突然に解散が発表され、預けた時計は返されるはずが、返却されないという声が多数あがりました。更に、時計が無断に売却されている実態があり、刑事事件に発展しました。

どんな人がターゲットになったのか、トラブル回避の視点は何か

手持ちの時計を人に貸し、月額料金を受け取ることができるということで、お小遣い稼ぎで、借金して時計を購入して時計を貸した人もあり、高級時計を保有している、または購入できるある程度資産を持っている人がターゲットとなりました。

一見、よいビジネスモデルのように見えますが、本当にそうでしょうか。

トラブル回避への視点を考えてみたいと思います。

1. 借り手がなくても毎月預託料が得られるという事業が成り立つのかを考える。
借り手がいない場合、預託料を受け取るという事業がどう成り立つのか。その説明があるのか確認することが大切です。
2. 自身の持ち物を貸すことは失うリスクもある可能性があることを考える。
今回のように突然事業者がいなくなったり、倒産した場合に自身の持ち物はどうなるかも想像してみましょう。

ほかにも、「貸す場合」とは反対の、ブランドバッグや洋服を月額料金で借りることができるサブスクリプションサービスとは何が違うのかなどと考えることもポイントとなります。

個人が商品を提供せず事業者が貸し出すケース、また、個人が提供するケースがありますが、借り手がつくとその月は〇〇円得られるという仕組みになっています。

今後に備えて

少し視野を広げ、メリットやリスクも考えてみましょう。また、ものごとを論理的に考える、証拠に基づいて考える、多くの情報を偏見や先入観にとらわれず、客観的に考えようとする、熟慮するといった批判的思考（クリティカルシンキング）を実践することによって、何か変だと感じることができるのではないのでしょうか。